

平成 20 年 3 月 31 日

成果報告書

| | | | | | |
|------------------|---|-------|-------|------|------------|
| 実施 市区町村 名 | 神奈川県厚木市 | | | | |
| 代表市区 町 村長名 | 厚木市長 小林 常良 | | | | |
| 事業名称 | 厚木市地域連携ポータルサイト構築事業 | | | | |
| 契約額 | 72,000,000 円 | | | | |
| 事業実施 概要 | <p>(1) 地域連携ポータルサイトの構築 本市が運用中のインターネットサービス「マイタウンクラブ」(図書の検索や予約、施設予約、講座イベント、チケット予約など)の機能を大幅に拡充し、講座・催し・団体・地域情報の提供サービスを民間事業者及び市民に開放し、行政と民間の情報を一体的に提供する汎用プラットフォームである「地域連携ポータルサイト」を構築。暮らしに必要な地域の《こまごまとした》情報を「いつでも・だれでも・どこでも」入手できるようにして、住民同士の参加・出会い・触れ合いの場を作ると同時に経済の活性化を図った。</p> <p>(2) あつぎ地域SNSを活用したコミュニティづくり マイタウンクラブの9万人を超える利用者登録データベースを利用した、あつぎ地域SNSの活用や利用者の疑問・質問に対して、コミュニティ参加者が相互に知恵を出し合ったり、聞いたり、調べたりして、答えやヒントなどに導くコミュニティサイト「あつぎ NANDA?」を通じて、住民相互の情報共有を推進し、互いを理解し、助け合う地域づくりを促進した。</p> <p>(3) 民間事業者の情報を有料化 民間事業者の店舗・サービス情報は、厚木市広告掲載要綱を基に有料広告として料金を課金(平成 20 年度～)し、事業の収益性・安定性を確保する。</p> <p>(4) 厚木市地域連携ポータルサイト運営協議会の設置 地域の団体、大学、企業、公募による住民、周辺自治体(愛川町・清川村)で構成された厚木市地域連携ポータルサイト運営協議会を設置し、地域の情報をネットに集約する「まちづくり運動」を推進した。</p> <p>(5) マイタウンサポーターズクラブの設置 団塊世代の退職者や主婦などを中心としたボランティア組織「マイタウンサポーターズクラブ」を設置。コンテンツ制作サポート、まちかどレポート、ネットコミュニティサポートなど、システムと利用者を側面からサポート。約 70 人のサポーターが自主的な活動を展開している。</p> <p>(6) 大学と連携した地域づくり 市内の情報メディア系の学科をもつ3大学と連携して、WEB デザイン、コンテンツ制作、キャラクターデザイン、キャッチコピーなどの制作のほか、顧客満足度調査や初期データ入力業務等を実施。地域のさまざまな人的資源や情報通信技術等を活用し、地域社会・経済の活性化を促進した。</p> <p>(7) 第三者評価委員会の設置 開発や運営に直接関与しない大学教員、市内企業経営者、有識者等で構成する第三者評価委員会を設置。本事業の責任ある事業展開を図るため、事業成果について、客観的に測定し、評価を実施した。</p> | | | | |
| 目標の達成状況 | 指 標 | 目標値 | 結果の数値 | 達成状況 | 計測方法・出典等 |
| | 民間の講座ネット公開数 | 100 件 | 0 件 | × | H20 年度から公開 |

| | | | | |
|---|----------------|---------------------|---|------------|
| 顧客満足度の調査(講座の検索結果の満足度) | サービス開始前の数値を指標化 | 実施済み(満足度の評価はH20年から) | ○ | 顧客満足度調査報告書 |
| 民間事業者情報掲載数の増 | 300件 | 171件 | △ | システム登録件数より |
| 地域SNSへの参加者 | 1,000件 | 441件 | △ | システム登録件数より |
| 広告料収入 | 600(千円) | 0円 | × | H20年度から課金 |
| サポーターズクラブ会員 | 50人 | 70人 | ○ | 登録者名簿より |
| 達成できなかった理由(△又は×の場合) | | | | |
| <p>(1) 民間の講座ネット公開数 民間の講座ネット公開数については、企業ショップ情報の登録者が、自ら主催する講座やイベントを登録し、情報公開や受付ができる仕組みになっている。今回、新たに企業ショップに登録した民間事業者は、店舗情報、地域SNS、講座イベントと各サブシステムの更新が発生することから、一度にすべての内容の周知や操作研修を実施することが難しいと判断し、民間の講座イベント情報については、平成20年4月中旬(予定)から順次、公開することとしたため、平成19年度の実績は0となり、目標値を下回った。</p> <p>(2) 民間事業者情報掲載数の増 民間事業者情報掲載数については、サービスの開始時期が当初の予定より大幅に遅れたため目標値を下回った。</p> <p>(3) 地域SNSへの参加者 地域SNSの参加者数については、サービスの開始時期が当初の予定より大幅に遅れたため目標値を下回ったものの、サービス開始一週間で目標値の40%を達成した。</p> <p>(4) 広告料収入 広告料収入については、稼働当初から民間事業者の情報に対して課金する予定であったが、運営協議会等で運営方法について総合的に検討した結果、バナー広告については、平成20年4月から、企業ショップ情報については、同年7月からそれぞれ課金することとしたため、平成19年度の実績は0となり、目標値を下回った。</p> | | | | |

注) 成果の達成状況欄には○(達成)、△(一部達成)、×(全く達成されていない)を記入すること。

注) 合計3枚まで。

＜委託業務説明書＞

1 平成19年度事業実施において明らかとなった課題

(1) 地域SNSの認知度の低さによるPR活動への課題

今回のプロジェクトを推進していく上で、SNSという「名称」「読み方」「サービス内容」「活用方法」などをサービスの直接的な利用者である住民に対して、いかに分かりやすく説明し、実際に活用していただくためのPRをしていくかが一つの大きな壁となった。

市の広報紙や各種たより等では、できるだけ横文字を使わずに分かりやすく表現することが求められている。社会的にも既に認知度が高いと思われる「ブログ」でさえ、《日記風サイト》などと訳されるほどであり、地域SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）となれば、限られた紙面の中で、相当な注釈を掲載してもサービスのイメージは伝わらないのが現状であった。また、庁内プロジェクトチーム、地域ポータルサイト運営協議会、サポーターズクラブなどの会議での説明においても、「いわゆるmixi（ミクシイ）の地域版」という補足が必要であった。更に地域の商店会の皆さん、自治会など各種団体の関係者、公民館などを利用している団体・サークルの皆さんにあっては、比較的高齢の方が多く、「mixi（ミクシイ）」を知らないという方が少なくない。1,000万人を超えるとも言われる参加者を有する「mixi（ミクシイ）」ですら、「知っている人が知っている」「使っている人が使っている」「名前だけはなんとなく知っている」に過ぎないのが、地域情報化の現状であることをまさに実感することとなった。

本事業においては、地域の公民館などの公共施設を会場として、地域SNSを中心とした操作説明と実機を使ったデモンストレーションなどを実施した。広報やホームページ、ポスター、公民館担当者によるチラシ配布や声かけなどあらゆる広報媒体を活用して周知を行ったが、操作説明会の参加者は伸び悩んだ。ここでもやはり「SNSってなに？」と言うことが参加者の少なかった要因のひとつであろうと考えられる。

サービス開始から10日程経過し、地域SNSの会員は430人を超えたが、これらの大半は「mixi（ミクシイ）」を知っている人であると予測される。

本市では、これまでなかなか情報発信をする手段を持っていなかった小規模な店舗やサークル、自治会、PTA、子ども会といった地域で活動するコミュニティ団体を主なターゲットとして、地域SNSを活用していただき、埋もれていた有益な情報を顕在化するとともに、経済の活性化、コミュニティの再生を図りたいと考えている。

今後の解決策としては、地域SNSで「何ができるのか」を実感していただくために、自治会やPTA、子ども会といった団体で地域SNSを活用したモデル的な成功事例を作り、他地域の団体が参考にしながら、全域に普及させていきたいと考えている。

(2) サポーターズクラブの自立的運営に伴う活動拠点等について

本事業で構築した地域SNSや企業ショップ情報システムの内容を常に活性化するためにサポーターズクラブを設置しており、現在、約70人の登録がある。サポーターから選出した役員会やリーダーを中心に、地域SNSへのコンテンツ供給や、まちかどレポート、ネット上のパトロール活動を行っている。今後は、サポーターによる企業ショップ情報の内容更新サポートや、住民向け操作研修の開催などを本格化していく予定である。

現在、サポーターズクラブは、市が事務局となり、将来の自立的な組織運営を視野に入れて運営しているが、本サポーターズクラブの立ち上げにより、団塊世代の退職者や家庭の主婦などで、優れた技術・知識・経験を持ち、社会や地域活動への参画の機会を探している人材が数多く潜在していることを改めて認識した。

こうした人材が地域において最大限に力を発揮し、結果として地域を活性化するための環境を整えるには、近い将来、運営を完全に独立し、市として展開できる事業の枠を超えたビジネスモデルとして、有料の操作講習会やWebコンテンツ制作の代行、広告の募集活動などのより自由度の高い事業展開を行うべきであると考えられる。

自立的な組織運営を行うに当たっては、サポーターの活動拠点となる場所が必要である。拠点の果たす役割としては、有料広告をはじめとする各種サービス等の受付・問い合わせ窓口、小規模な操作講習の実施や打ち合わせ、研修用パソコンなど機材や資料作成用の簡易印刷機などの機材の設置スペースなどが考えられ、活動には欠かせない要素となる。本市においては、このような機能を備え、団体が常駐できる適当な施設がないため、場所の確保が今後の課題となっている。

当面の活動に当たっては、中心市街地にある公共施設（あつぎにぎわい処）内の交流スペースと貸し会議室を不定期的に利用することとしている。

また、サポーターズクラブが、自立した組織として安定した活動を継続的に行うためには、安定した収入を確保する必要がある。前述した活動拠点の施設賃借料や電話・インターネット回線などの維持管理費をはじめ、研修ほか各種イベントの開催などの要する事業費や、人件費、備品・消耗品などの経費等が見込まれる。自立的な活動を行うためには、できる限り行政に依存することなく、独自の財源を確保していく必要があるが、その財源をどこに求めていくかは今後の課題である。

2 自立的・継続的運営の見込み

平成20～21年度については、地域SNS利用者の拡大、企業ショップ情報に登録（広告料として有料）する民間事業者の拡大及びシステム運営上の安定性を確保するため、本市が厚木市地域連携ポータルサイト運営協議会及びマイタウンサポーターズクラブと協調しながら、強いリーダーシップを発揮し、責任を持ってシステム全般の運営に当たる。

運営経費については、カルチャーセンター、各種教室・お稽古等の情報提供者（教室講座・店舗等）の拡大を図りながら、ポータルサイトとしての集客力を高め、100%行政に依存することのない安定した運営体制を整える。

今後、複数のサービスのうち民間コンテンツに係る運営体制については、平成21年度まで築き上げた運営基盤を基に、行政主体から厚木市地域連携ポータルサイト運営協議会やサポーターズクラブが主体となる自立的な運営体制に移行できるよう検討を進める。

運営費については、全体の85%を民間事業者からの講座や店舗等の情報提供料やバナー広告料収入で賄えるように努力し、その他については、市等からの負担金をもって充て、事業の安定した運営を図る。

3 今後の展開方針

厚木市では、本事業を単なるアプリケーション開発ではなく、「ICTを利活用して《地域力》を高め、『元気なまちあつぎ』を創造する」ための「まちづくり事業」として捉えている。

これらの実現を図るために、地域の広範な人材を結集するとともに、より多くの住民が事業の主旨に共感し協力する体制をとることが欠かせない。そこで、「市町村の連携」「産官学民の連携」「地域団体の連携」「住民の連携」の4つの連携を軸に安定した事業展開を図る。

なお、サービス開始から2箇年を経過する平成21年度までは、利用者の急速な拡大を図るとともに事業の安定性を確保するため厚木市が責任を持って本事業の推進母体となる。平成22年度以降は、民間のコンテンツの分野についてはNPO法人等が事務局となって自立的な管理運営が可能となるよう検討を進める。

＜システム設計書＞

1 概要

(1) 共通認証基盤

厚木市地域連携ポータルサイト構築事業において提供する講座イベント情報サービスの申し込みやあつぎ地域SNSの本人認証などで使用する利用者登録は、運用中の「マイタウンクラブ」のデータベース（約9万人）を利用している。個人登録の申し込みは、厚木市・愛川町・清川村の公共施設の窓口45箇所でも可能である。

サービスは、シングル・サイン・オン対応になっているため、利用者は登録番号（ID）と暗証番号（パスワード）でサインオンすると、認証状態を維持したまま複数のサービス（図書検索・予約、施設予約、講座申し込み、チケット予約、地域SNSなど）を受けることができる。

(2) 企業ショップ情報

企業ショップ情報システムは、民間事業者の店舗やサービスに関する情報をインターネットで提供するサービスである。これまで行政や民間のホームページに分散していた有益な情報やインターネット上に存在していなかった地域のさまざまな情報を一元化・最適化し、住民に提供する。民間事業者は、インターネットを活用してIDとパスワードで認証すれば、基本情報（地図取得機能）、新鮮情報、商品・サービス情報、講座・イベント情報、クーポン情報、求人情報などの様々な情報をリアルタイムに更新することができるほか、地域SNSのマイページともリンクすることが可能である。また、利用者は、テキストやジャンル、エリア、クーポン、求人といった複数のキーワードで検索し、希望する店舗やサービスをすばやく発見することが可能である。

(3) 講座イベント情報サービス

本サービスは、市が生涯学習講座の情報を提供している「マイタウンクラブ」のサービス（申し込み機能付き）を民間事業者や住民に幅広く開放し、市の学級・講座・催しの紹介と地域に無数に存在する講座、教室、お稽古ごとなどの情報や地域内の催し情報を一括して提供する。住民は、分野、主催者、地域、文字列などで講座イベント情報の検索が可能であり、利用者は地域に存在する無数の講座イベント情報から短時間で目的の情報にアクセスできる。

利用者は、民間事業者や地域住民が主催した講座に参加する場合、同意事項を確認した上で、インターネット申し込みを行うと、主催者があらかじめ設定したメールアドレス宛に申し込み情報を転送する仕組みである。

また、地域SNSサービスと連携することで、講座ごとに専用のコミュニティを設置することが可能であり、参加者同士のコミュニケーションや情報の共有や提供などに活用することができる。

(4) あつぎ地域SNS

既存の共通認証基盤（マイタウンクラブ利用者登録）を利用し、大規模な地域SNSを展開。あつぎ地域SNSは、ネット上の登録や電子メールを利用した登録または招待制ではなく、さらにセキュリティを高めたネットコミュニティである。

「マイタウンクラブ」の利用者登録は、公共施設で身分証明書を提示して登録が行われているため本人認証性が極めて高い。書き込みを利用者登録がある住民に限定することで、よりセキュアなコミュニティが成立する。

また、地域の公民館などで活動をしている生涯学習サークルや自治会、PTA、子ども会などが簡単に団体登録することができ、共通認証基盤との連携により、気軽に地域SNSに参加することが可能である。

開発当初から多数の住民が利用することを想定し、地域SNSとして本当に必要な最低限の機能に絞り込むとともに、わかりやすいボタン配置や名称を意識し、情報リテラシーが異なる住民も同じレベルで使いこなせるように配慮している。

(5) 横断検索機能

利用者が情報を探しやすいようにマイタウンクラブトップページの検索機能を強化し、マイタウンクラブ内の「企業ショップ情報」「講座イベント情報」「公募募集情報」「地域コミュニティ情報」「地域SNS・ブログ情報」と厚木市ホームページに掲載されている全ページの情報を横断的に検索して一括表示することが可能である。利用者は自分が必要とする行政サービス、民間サービス、地域コミュニティ情報などを分かりやすく手に入れることができる。

(6) 地域課題解決型FAQサイト「あつぎNANDA？」

あつぎ地域SNSのコミュニティを活用した「地域課題解決型FAQ」サイトである。「暮らし」「子育て」「観光・ハイキング」「おいしいもの」といった各テーマについて、「何だろう」「どうしてだろ」「誰か教えて」というような疑問・質問に対して、コミュニティ参加者が相互に知恵を出し合ったり、聞いたり、調べたりして、答えやヒントなどに導くコミュニティサイトで、マイタウンクラブのトップページから直接「NANDA？」コミュニティに参加することができる。

2 運用結果

(1) 企業ショップ情報

企業ショップ情報については、現在171件の民間事業者の店舗やサービス情報を掲載している。当初からの計画どおり、大規模な店舗のほか、これまでホームページなどの広告媒体を持つことができなかつた小規模な店舗等の情報が、安価な広告料金でインターネットを活用して、いつでも・どこからでも簡単に更新することができ、地域に埋もれていた有益な情報を顕在化することができた。

また、店舗情報が地域SNSのマイページと連動していることから、地域住民を中心とした会員制のSNSサイトの中で、店舗・サービス情報を配信できるほか、お店や経営者のブログなどを通じて地域経済やコミュニティの活性を図ることができた。

(2) 講座イベント情報

民間事業者等の運用面を考慮して、登録開始時期を平成20年4月からとしたため、運用実績はないが、本番同様のシステムテストでは、仕様どおりの機能を有している。民間事業者は、企業ショップ情報に登録し、IDとパスワードを利用し、自らが主催する講座やイベントの登録やインターネット受付に関する設定等を行うことができるほか、地域SNS内に専用のコミュニティを設置することが可能である。

また、利用者は、行政、民間事業者及び地域コミュニティ団体を意識することなく横断的な検索結果の中から希望の講座を見つけて、参加できるとともに、これまで地域で埋もれていた小規模な学習塾やお稽古ごとなどの有益な情報を顕在化することで、生涯学習機会のニーズの高まりや、需給のミスマッチなどを解消することができる。

(3) あつぎ地域SNS

あつぎ地域SNSは、マイタウンクラブ利用登録者(約9万人)のうち、16歳以上の個人登録者、地域コミュニティ情報を公開している個人・団体及び企業ショップ情報に有料で登録をしている民間事業者が、登録時に配布したIDとパスワードを利用して参加できる会員制のサイトであり、サービス開始から1週間で参加者441人、コミュニティ40件という、急速な勢いで拡大している。特に、「環境・リサイクル」をテーマとしたトピックなどでは、参加者の興味やリサイクルに対する関心も非常に高く、普段口に出せない質問やハンドルネームだからこそ言える意見や提案などで非常に盛り上がっている。

また、利用者が拡大する中で、サイト内のセキュリティも懸念されるが、身分証明を提示して利用者登録を実施しているため、メールアドレス登録制や招待制の同等サービスに比べ、よりセキュアなコミュニティ空間が維持できるほか、各ブログやトピックには、通報機能を備えており、参加者全員が、サイト内のパトロール(=有害情報の通報)を実施できる仕組みとなっている。

なお、運営をサポートするボランティア団体「マイタウンサポーターズクラブ」のメンバーもサイト内のパトロールを積極的に実施し、安全なサイトを維持していく体制が整っている。

また、地域SNSのコミュニティの機能を応用し、サポーターズクラブが設置する公式コミュニティとして、「まちかどレポート」と地域課題解決型FAQサイト「あつぎNANDA？」を運営している。

「まちかどレポート」は、マイタウンサポーターが、地域のイベントや魅力ある店舗、輝いている人物、歴史、文化などをレポートすることで、地域の価値ある情報を公開しています。現実にレポートされた店舗の商品が一部の参加者の中でブームになったり、紹介されたイベントに参加したりする例もあり、SNS内でのコミュニティが実社会でのコミュニティへつながりを持ち始めている。

「あつぎNANDA？」は、疑問・質問に対して、コミュニティ参加者が相互に知恵を出し合ったり、聞いたり、調べたりして、答えやヒントなどに導くコミュニティサイトであり、子育て中の方の悩みなどに対して、お互いに意見を交わしたり、情報交換したりして少しずつ盛

り上がってきている。

(4) 横断検索機能

横断検索機能は、マイタウンクラブで保有している講座・イベント情報、公募・募集情報、地域コミュニティ情報（生涯学習団体・NPO・ボランティア・地域指導者など）、企業ショップ情報、地域SNS・ブログ情報に加え、厚木市公式ホームページで公開している行政情報（約8,000ページ）を横断的に串刺しで検索することが可能である。

これまでは、行政情報、民間情報、地域情報が別々に管理されており、検索についても分野ごとに縦割りで実施されていたが、横断検索サービスを提供することにより、官民間わず地域内の有益な情報が一括で表示されるため、検索に係る利便性は飛躍的に向上している。

例えば『子育て』というキーワードで横断検索を実施した場合、市ホームページで公開している「手続き」「各種助成」「育児」「予防接種」「絵本」「保育所」「公園」などの情報や、マイタウンクラブで公開している「子育て関連の講座やイベント」「ヘルパー募集」「子育てサークル」「ボランティア情報」民間事業者の「子育て関連店舗やサービス情報」のほか、地域SNSのブログやコミュニティ内で投稿のあった「関連記事やコメント」などが瞬時に一括で表示されることとなる。

3 課題・改修の必要性

(1) トップページの特ピックス自動表示

マイタウンクラブのトップページには、市のイベント情報や新着記事、まちかどレポーターが取材した観光・人物・店舗などの新鮮で魅力のある情報などを1枚の写真とテキストで紹介する機能を備えており、管理者機能から手動で設定している。本来、これらの新鮮情報は、1日に複数件存在することや1つの記事を複数日に渡って表示する方がより効果的なPRを実現することが多い。また、手動設定であるため更新頻度に限界があるほか、休日等の更新が困難である。

今後については、これらの新鮮情報の画像データとテキストについて、公開期間（範囲）を設定しながらデータベースに蓄積し、クリック毎に表示を変更していく機能に改修することが望ましいと考える。

(2) 企業ショップ情報の携帯電話機能

企業ショップ情報では、民間事業者の店舗やサービスの基本情報や新鮮情報、お得なクーポン情報などをリアルタイムに更新し、情報提供している。これらの情報検索は、家庭や職場のパソコンのみではなく、外出先や移動中など「いつでも・どこからでも」新鮮情報を入手することで、より利便性が向上する。また、昨今の携帯電話の爆発的な普及により、各種サービスにおいて、携帯電話インターネットサービスへの対応は必要不可欠となっている。

今後については、早急に携帯電話インターネットサービスへの対応を検討し、外出先から携帯電話でWEB地図を確認したり、携帯電話に表示されたクーポンを利用したりするサービスを追加することが望ましいと考える。

(3) 企業ショップ情報のネットショッピング機能

企業ショップ情報については、地域の小規模な民間事業者も含む様々な店舗やサービス内容をインターネットで配信している。このサービス開始により、これまで地域に埋もれていた有益な情報を公開する仕組みとしては有効であるが、新鮮な情報を幅広く提供することによる間接的な経済活性化に過ぎない。ICT利活用における恩恵を最大限に活用するためには、インターネットで利用者が店舗等を検索し、そのまま「買い物」と「決済」を完結することであり、これは直接的な地域経済の活性につながるものであると考えられる。

ネットショッピングの機能については、相当数のサービスが既に出回っているため、改修することにより安定的にサービスは提供できると考えられる。一方、今回、本市がターゲットとした地域の小規模な民間事業者に置き換えてみると、「パソコンがない」「インターネットがわからない」などといった初歩的な問題や商品の「受注」「配送」「流通」などに対応しきれないなど、仕組みとして導入するためには運用面（バックヤード）での課題が少なくないと考えている。

今後については、地域連携ポータルサイト運営協議会や地元商店会などと協議し、運用面などについて調査・検討を実施して、進むべき方針を決定していく必要がある。

(4) 地域SNSコミュニティ内のインターネット地図連携

地域SNSのコミュニティ機能では、あらゆるテーマで意見交換や情報提供・共有が促進されていくと考えられる。現在でも「桜の開花状況」「文化財」「店舗案内」等において、インターネット地図を活用しているケースが多いが、トピック内で当該地図のURLをリンクして地

図の表示を行っている。コミュニティ内では、共通のテーマで活発な情報交換を行うため、参加者が共有できる地図を提供するとともに、各テーマに関連する情報を互いに書き込める機能があると更にコミュニティが活性化されると考える。

今後については、地域連携ポータルサイト運営協議会などと協議し、調査・検討を実施して、進むべき方針を決定していく必要がある。

(5) 地域SNSコミュニティ内のトピック・ブログのカテゴリ機能

地域SNSのトピック・ブログ機能では、日付順、更新順、カレンダー、一覧等で表示されるが、共通のテーマの中でも複数の分野に整理することで、より分かりやすく情報を公開することが可能であり、多方面でコミュニティ活用の幅が拡大していくことが考えられる。

今後については、地域連携ポータルサイト運営協議会などと協議し、調査・検討を実施して、進むべき方針を決定していく必要がある。

4 その他

(1) 活用したネットワーク種別・伝送速度

ア 住民（利用者）及びサービス提供者（民間事業者等）

一般のADSL回線、光回線、CATV等による3Mbps以上の高速インターネット通信回線による利用が望ましい。一般公衆回線でも利用可能だが、実用的でない。なお、本事業の自治体連携地域である厚木市、愛川町及び清川村では、ほぼ100%の世帯で高速回線に接続が可能となっている。

イ システム管理者（厚木市・愛川町・清川村）

既設の自営光ケーブル又は広帯域拠点間接続回線（100Mbpsほか）等の借り上げ専用回線により、ネットワークインフラは整備済み。（厚木市データセンターと厚木市役所本庁舎間は、自営光ケーブルを敷設済み。厚木市データセンターと愛川町及び清川村の庁舎間については、「マイタウンクラブ」の公共施設予約システムを共同利用しているため、既に借り上げ専用回線を敷設済み）

(2) 関連する既存の情報通信システムとの連携状況

本システムは、既存の「マイタウンクラブ」の機能を大幅に拡充し、民間事業者及び住民に開放するものであり、既に厚木市の人口の40%に当たる9万件の登録がある利用者データベースと連携している。新たな利用者登録が不要であり、システム稼動当初から多数の利用者を確保することができる。

今後については、提供される情報の範囲が民間サービスに拡大されるため、「図書館の利用者」「公共施設の利用者」「生涯学習情報の利用者」などの「地域における固定客」をベースとして、サイトの利用者が大幅に増加するとともに、あるサービスを利用するために本サイトにアクセスした訪問者が新しいサービスにアクセスするという相乗効果が期待できる。

5 システムの詳細

【別紙1】「ネットワークイメージ図」参照

【別紙2】「システム構成図」参照

【別紙3】「システム運用図」参照

※システム関係の添付印刷物

【別添1】データ定義書

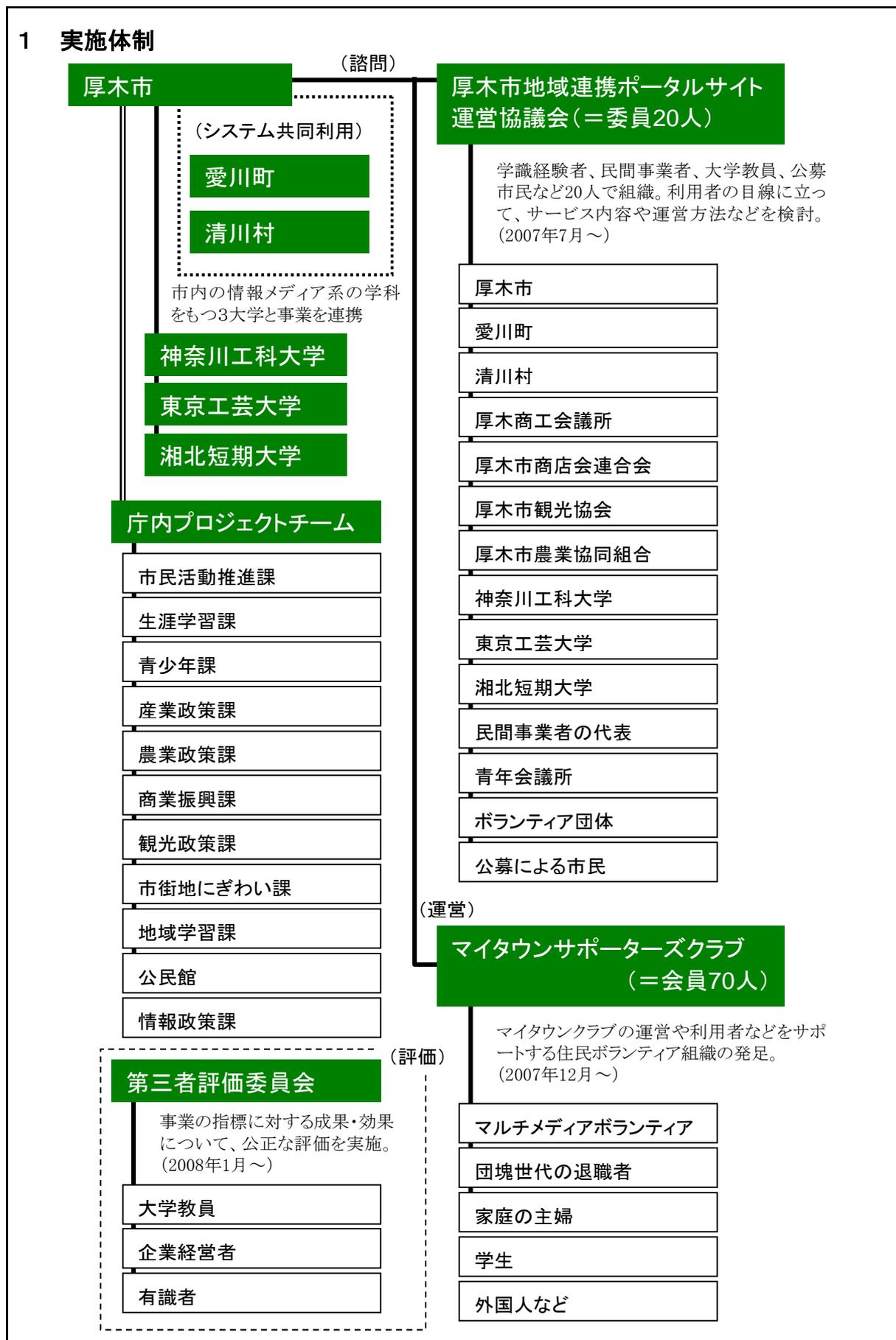
【別添2】ソフト要件定義書

【別添3】データベース設計書

注) システム関係の添付印刷物は1部のみ提出。必要な場合には補足説明図（A4判）等を添付すること。

<実施体制説明書>

1 実施体制



| 2 各主体の役割 | | |
|----------|-----------------------------|--|
| NO | 名 称 | 役 割 |
| 1 | 厚木市 | 地域 I C T 利活用モデル構築事業の受託者として、「厚木市地域連携ポータルサイト構築事業」の企画・立案・開発・運営・サポート等について、地域の様々な団体と連携して業務を遂行した。 |
| 2 | 愛川町 清川村 | (1) 厚木市が開発したシステムを愛川町・清川村及び当該町村区域内の民間事業者が共同利用する。 (2) 運営協議会に参画してシステム開発や運営に係る調整や協議等を行うとともに、区域内の経済団体や民間事業者との調整業務を行う。 |
| 3 | 神奈川工科大学 東京工芸大学 湘北短期大学 | (1) 市内の情報メディア系の学科を持つ3大学と連携し、WEBデザイン・コンテンツ制作・顧客満足度調査、初期データ入力などを委託した。 (2) 運営協議会のコアなメンバーとしてサービスの企画・開発や運営に係る調整や協議等を行った。 |
| 4 | 厚木市地域連携ポータルサイト 運営協議会 | (1) 厚木市、愛川町、清川村、大学、商工会議所・商店会等の経済団体等、地域団体等の幅広い団体等で構成。システム設計の段階から、利用者（市民や情報提供者）が協議会に参画しユーザー重視の開発を実施するとともに、「まちづくり」という観点から事業を盛り上げ、開発内容、運営方法等についての協議、調整等を行った。 |
| 5 | マイタウンサポーターズクラブ | (1) 現在、市内で活動中のボランティア団体「厚木市マルチメディアボランティア」（会員60人）を核として、大学生や住民（特に団塊世代の退職者や家庭の主婦）などからサポーターを公募した。 (2) 民間コンテンツの制作支援やブログなどの操作説明、地域SNSの運営支援などを行い、システムや利用者をサポートする体制を築いた。 (3) まちかどレポートや、サイト内のパトロール等を実施し、魅力あるコンテンツの配信や安心して利用できるサイトづくりを実施している。 |
| 6 | 第三者評価委員会 | (1) 大学教員、企業経営者、その他有識者等の3人による第三者評価委員会を設置する。 (2) 責任ある事業展開を図るため、事業の指標に対する成果・効果について、公正な評価を実施。 |
| 7 | 庁内プロジェクトチーム | (1) 厚木市役所内の産業振興、市民協同、情報政策等の各セクションの担当者で本事業を強力に推進していくためのプロジェクトチームを設置。 |

【別紙4】「プロジェクト体制図」参照

【別紙5】「運営協議会関係資料」参照

【別紙6】「第三者評価委員会関係資料」参照

【別紙7】「マイタウンサポーターズクラブ関係資料」参照

【別紙8】「顧客満足度調査報告書」参照

【別紙9】「マイタウンクラブガイドブック等」(参考資料)

事業実施進行表

| 実施内容 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | H20 1月 | 2月 | 3月 | |
|--------------------|-----------|----|----------|-----|--------|---------|-----------|----|----|--|
| 運営協議会開催 | ■ | ■ | ■ | | ■ | | ■ | | ■ | |
| 運営協議会 ワーキング開催 | | | ■ ■ | | | | | | | |
| サポーターズ クラブ | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | |
| | 研修 | | | | | | | | | |
| 第三者評価委員 会 | | | | | | | ■ | | ■ | |
| 庁内プロジェクト | 総合調整 | | | | | | | | | |
| システム構築に 係る入札 | | ■ | | | | | | | | |
| システム設計 | | | 要件定義 | 設計 | システム製造 | テスト | | | | |
| システム開発(定 例会) | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | |
| | 開発関係打ち合わせ | | | | | | | | | |
| システム稼動 | | | | | | | | | ■ | |
| 大学連携(WEB デザイン等) | | | WEBデザイン等 | | | | | | | |
| 大学連携(顧客 満足度調査) | | | 検討 | 調査 | 回収・集計 | 分析・レポート | | | | |
| 大学連携(初期 データ入力) | | | | | | | データ入力等 | | | |
| 操作説明会 | | | | | | | | | ■ | |
| 報告書作成 | | | | | | | | | ■ | |